

令和8年度 第1回 教育研究所運営に関する懇話会 議事録

- ◆ 日 時 令和8年5月15日（金）10：00～11：30
 - ◆ 会 場 教育研究所 第2研修室
 - ◆ 出席者
 - 座長 河合 健治 (中学校長会長)
 - 運営委員 米持 正伸 (横須賀総合高等学校 校長)
 - 〃 宇佐美 暁 (小学校校長会長)
 - 〃 小泉 姿子 (富士見小学校 校長)
 - 〃 新田 将之 (久里浜中学校 校長)
 - 〃 原口 尚延 (教育指導課課長)
 - 教育研究所職員 杉戸 美和 (教育研究所長)
 - 〃 宮原 充宏 (教育情報担当課長)
 - 〃 田山 雅也 (主査指導主事)
 - 〃 太田 幸美 (主査指導主事：研修・調査研究担当)
 - 〃 濱田 広治 (係長：管理運営係)
 - 〃 熊谷 卓行 (指導主事：ICT活用進担当)
 - 〃 三ツ堀 幸正 (主査：ICT環境整備担当)
- 他 指導主事4名

- ◆ 傍聴者 0名

- ◆ 次 第 (司会：教育研究所 主査指導主事 田山、記録：会計年度職員 棚橋)

懇話会進行上の確認事項・傍聴者確認

1. 開会
2. 所長・担当課長挨拶
3. 懇話会構成員、係長、主査、指導主事紹介
4. 座長、副座長選出
5. 議事：令和8年度教育研究所諸事業等についての説明及び質疑
 - (1) 令和8年度教育研究所の基本方針、重点、予算概要(所長・担当課長)
 - (2) 研修・調査研究担当事業について(太田主査指導主事・田山主査指導主事)
 - (3) 人権教育推進事業について(田山主査指導主事)
 - (4) 管理運営係事業について(濱田係長)
 - (5) ICT活用推進担当事業について(熊谷指導主事)
 - (6) ICT環境整備担当事業について(三ツ堀主査)

6. 連 絡

7. 閉 会

[資 料]

1. 教育研究所条例
2. 教育研究所運営に関する懇話会設置要綱（4/20 送付済）
3. 教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領
4. 令和8年度 教育研究所「要覧」
5. 令和8年度 予算概要
6. 令和7年度 成果と課題

◆ 議事録

議事進行上の確認事項・傍聴に関する確認 傍聴者 0 名

1. 開会（進行：主査指導主事 田山）
2. 所長・担当課長挨拶
3. 懇話会構成員、係長、主査、指導主事紹介
4. 座長、副座長選出
5. 議事：令和8年度教育研究所諸事業等についての説明及び質疑
 - （1）令和8年度教育研究所の基本方針、重点、予算概要 所長・担当課長
 - （2）研修・調査研究担当事業について 太田・田山
 - （3）人権教育推進事業について 田山
 - （4）管理運営係事業について 濱田
 - （5）ICT活用推進担当事業について 熊谷
 - （6）ICT環境整備担当事業について 三ツ堀
 - （7）質問・意見等

【宇佐美議長】

それでは、ただいまの説明につきまして初めに質問を行い、その後、ご意見を伺いたいと思います。初めに質問がある方は挙手をお願いいたします。

【米持校長】

総合高校の米持です。よろしくお願いいたします。

3ページの研修調査研究担当のところ、本年度の各研修講座の一覧が9ページ10ページまで、理科のところまで繋がっていると思いますが、まだ講師が決まっていないところが空欄になっています。どういう講師をお呼びするかということが、研修を行っていく上で非常に大切な視点だと思いますので、質問ではありませんが、ぜひ良い講師を選定していただいて、実のある研修になっていくよう、よろしくお願いいたします。それから現在決まっている講師の方の中で、本年度初めて横須賀で講義をしていただく方がいらっしゃるのかどうか、お聞きしたいと思います。それから9ページの初任者研修のところでお名前が入っている住田昌治先生ですが、学校法人湘南学園の元学園長ということですが、この方、元々横浜の小学校の校長先生だったと思います。この方、現在は完全に学校法人を辞めていられるのか、それともまだ籍は残っていて、大学の名誉教授のような形で所属があるのか、おわかりでしたら教えてください。

そして次に14ページの教育情報担当のICT推進についてです。ICT機器の活用を教員側が学んでいく上で、非常に大事な研修を行っていただいております。遅ればせながら、定時制が本年度の高校1年生から年次進行で1人1台端末を、しかもWindowsパソコンを導入することになっています。そこにGoogleの学習ソフトを活用して、事業を進めていく計画ですが、ぜひ本年度からスタートする学校の要望に応じた研修については、いろいろな形でご支援いただきたいと思います。とはいえ、横須賀にはたくさん学校があるので、回数的には年間何回ぐらいしていただけるのか、見通し等を教えていただければありがたいと思います。

16ページで、本年度もICT機器についてはたくさんの予算がとられていて、更改もされていくということですが、一方で不要になったり、処分しなければならなくなったりする機器も出てくると思います。機器の廃棄や処分についての計画も必要になってくると思いますが、小中学校を合わせると非常にたくさんの機器になると思います。これまでそういった機器の一時保管場として、本校の旧校舎を使用していたと思いますが、本年度から別の物品が入ってくるということで、使えなくなる恐れが非常に高くなっております。本校の旧校舎では、1階のスペースはかなり埋まってしまっていますが、2階、3階になると少しスペースを空けて物品を入れることも可能かと思っております。そういった相談等を今後していく必要があるのではないかと考えていますので、これは質問というより連絡となりますが、ぜひよろしくお願いいたします。以上です。

【宇佐美議長】

ありがとうございます。研修講師に関わる質問や、情報研修の回数、機器の管理等につい

でご質問がありました。それぞれ関連を伺わずに一つ一つお答えいただく形をとりたいと思います。

【太田主査】

ご質問ありがとうございます。講師についてです。本年度基本研修の講師の方は、以前横須賀市でお願いしたことがある方に本年度もお願いしております。基本研修を含め、夏の研修等、皆さん横須賀市で過去、講師を務めてくださっている方になっております。もう1点住田元校長先生ですが、現在は肩書きというはお持ちではないようです。以上になります。

【熊谷指導主事】

ICT活用推進担当熊谷です。定時制の高校の研修の回数についてお答えします。前年度からお話をいくつかいただいていますので、学校環境や個々の先生方のニーズなどをまずお聞き取りした上で、現実的に何回ぐらいが望ましいかというのを丁寧に進めていきたいと思っています。まずはお話を聞きながら、どういう活用状況なのかということを把握した上で、回数等が決まってくると思いますし、可能な限り要望にお応えしていきたいと思っています。よろしくお祈りします。以上です。

【宇佐美議長】

機器の管理については特に加えた情報はないということで。では続けて質問を取りたいと思います。

【原口課長】

初任者研修の件です。まず初任者研修を通して、このところの初任者の傾向や、感じられている課題について、感じられていることを少し教えていただきたいと思っています。

もう一点が、初任者が困り感を持っていたりとか、途中でバーンアウトしてしまったりということもあると思います。そうした初任者へのサポート的なところを多分研究所でもやっていたらいいと思います。前年度の実績で結構ですので、どれぐらいそうした形でサポート入ったかということについて教えてください。

三つ目は初任者研修が一番基本研修としては回数が多いと思うのですが、その中でもコンセプトというか、研究所が初任者の先生方に対してどのような形で初任者研修を行い、何を大切にしているかということについて教えていただければと思います。

もう一点。総括教諭の関係ですが、総括教諭研修講座ともう一つ、学校運営研修講座、これも総括教諭研修の一環だと思えますが、今の学校運営研修講座については総括教諭の中から、いわゆるピックアップをしているのか、それとも自ら進んでこれを希望するという形なのかを教えてください。

【宇佐美議長】

初任研に関わる状況や対応、コンセプト、それから総括教諭に対する研修にご質問をいただきました。ご回答お願いいたします。

【太田主査】

ご質問ありがとうございます。初任者研修について、まず1点目、初任者の課題をどう受

け止めているかによろしいですか。初任者としてはいろいろなことを学びたいけれども、その学び方がわからない。そういうことを感じています。学び方を丁寧にお伝えしながら、自分で気づき考えていただくところ、こちらが伝えなければいけないところ、そのバランスを見ながら、検証していかなければいけないと思っています。

初任者のサポートですが、心と体の部分もあります。初任者研修では研修の振り返りを必ずとりませんが、併せて初任者には悩みについて必ずアンケートを取るようになっています。指導主事のみが見られる形で生の声、本当の声を聞けるようにしております。こちらで学校と連携していかなければいけない事案については学校に連絡を入れて、その不安や悩みが軽減できるように進めているところです。また、本年度はメンタルヘルスを新しく初任研で取り入れています。今までは2年研で行っていましたが、初任者のほうが必要ではないかという判断をいたしまして、2年経験者研修で、メンタルヘルスをやっていただく講師の方を初任研でお呼びをしています。初任者のサポートについて、私達と外部講師と両方からサポートを図っております。また、学校との連絡を密にして、校長先生とよく話をして校長先生からご相談を受けることもあります。そのときはこちらから学校にお伺いをして、授業の様子を見たり、校長先生からお話を聞いたり、本人と話をしたりということを行っています。

初任者のコンセプトというところですが、最初にお答えしたところと重なるところはありますが、先生方同士の学び合いを大事にしているところです。その学び合いからの気づきが大切だと思いますが、ただその気づくためには初任者としても考えることが必要です。何をこちらがお伝えして、その伝えたことから対話ができ、気づけるように研修の中で考えているところです。

最後に総括研についてです。学校運営研修は総括3年目の方を対象にしています。学校運営という名前がついていますが、学校運営も含めて学校経営の方にも意識が高まるように研修内容を考えているところです。以上です。

【宇佐美議長】

ありがとうございます。初任者の状況というところで、学校で感じている生の声を共有するとよいかと思います。参加されている学校現場の校長先生方から伺ってもよろしいですか。河合先生、中学校も初任者の先生がたくさん入ってきていると思いますが、その初任者の傾向や、どのような状況にあるかというところを少し共有したいと思いますが、いかがでしょうか？感じていることをお伝えいただければと思います。

【河合校長】

傾向等はあるとは思いますが、人それぞれだと思います。例えば大学を卒業してすぐだからと言って一括りにするのではなくて、皆さんそれぞれ違うと思いますので、それに応じた研修・研究、あるいは各学校で行っていくのが一番いいのかなというふうには思っています。中学校の場合ですと評価も違いますし、担任を持っている、持っていないということもありますので、それぞれに合わせたものを教育研究所から言っていただいて、それをさらに具体的に学校で各校長から伝えていくことが必要なのかなと思っています。特別一緒に

に先生たちを見るというような見方をしないようにしております。以上です。

【宇佐美議長】

ありがとうございます。新田先生、いかがですか。

【新田校長】

河合校長先生と同じで、やはりそれぞれ持っているものが違うので、その状況で少し見えています。ただ明らかなのは、どうしてもコミュニケーションに困難を抱えている人が増えているというのは感じます。これは子供も、社会全体も同じで、そこは感じているけれども、だからと言ってそれに対してどうすればよいかについてはとても難しいところで、専門的な知識が必要かなと思います。それを感じていただいて、研修を作っていたいただいているのがよくわかります。

【宇佐美議長】

はい、よくわかりました。

【小泉校長】

初任者だけではなく、経験の浅い先生方の中には、校内で自分の困っていることが発信できなかつたりすることがあります。今までの事例の中で、研究所の研修の中の感想欄に困り感を書いて、それを研究所でアンテナ高くキャッチしていただいたものを学校に戻してくださったというケースがありました。「こういうことを書いているので、学校でもちょっとお話してください」ということから、本人の困っていることを、私も話すことができたケースもあります。ぜひ、どこで困ってることを伝えられるかというのは、その人によってそれぞれ違うと思いますが、ぜひそういうときには、学校と共有していただけると本当にありがたいと思いましたので、今後もよろしくお願いします。

【米持校長】

私も何人かの初任者の方々を十羽一括りで見ても、傾向を示すというようなことは多分できないだろうと思っています。やはりそれぞれの人にそれぞれの課題があつて、よいところもあつて、というふうに思っています。先ほど少し気になったのは、学び方がわからない初任者がいるという話がありましたが、それこそ、全体研修の中で教師として学んでいくには、どのような方策があるのかという事例をいろいろと示しておくことが必要だろうと思います。あと基本としては、やはり先輩教員がいますから、自分で自分が目指したい先輩の教員を見つけ出すという視点で仕事をしていくことを、初任者のうちから見つけていけるとよいと思います。これは教員だけではなく、全ての仕事に言えるかと思いますが、ある仕事に初任者として入ったときに、その職場にいる優れた先輩を早く見つけ出して、その先輩のから学んでいくということが非常に大事だと思います。OJT が言われているのはその部分だと思います。研究所の全体研修で行う役割は、全体の広い大きな部分であると思いますが、それとともに学校の中で教員自身が育っていくように、日々の仕事が研修というような位置づけで意識してもらうことも、一つ重要なことではないかと感じています。

【宇佐美議長】

私も新田先生のご意見とお考え、感じていることと、本当に同じですが、若い先生がある日、急に病休に入りますと言って医者からの診断書を持ってくるようなことがありました。事前に一度も相談がなかったのも、そういうところではやはりコミュニケーションというところで、難しさを持っているというのを感じます。今年は校長会長ということでいろいろな学校の情報が入ってきていて、既に今年もお休みに入られている教員がいると伺っています。そういう意味では、研修で本当にそういうところからの吸い上げを意識してくださっていますが、いろいろな場でそういう悩みを書き出す場を作っていただけると本当にありがたいと思います。

何か意見を伺うような形になってしまっていますが、質問の時間ということで他にご質問がありましたらお願いいたします。

【小泉校長】

はい。16 ページに関わるところで、校務支援システムの更改ということで、今度変わるかと思いますが、そのシステムで新たに、変わる場所がどういうところなのかということをお教えいただけたらありがたいです。

あと少しまた別の話ですが、ほとんどの学校、つまり小学校、中学校は Chromebook が子どもたちに配布されていますが、養護学校は iPad が入っております。1校だけという中では前年度、本当に研究所の方でたくさん動いてくださって、学校の中でやることの負担感が減り、とてもありがたかったです。また新たに本年度更改となりますと、そこでの整備が教員にとっては負担の部分もあるかと思うので、一緒に協力していただけたらありがたいと思っています。

そしてまた別の話になりますけど、小学校にも電子黒板が導入されていきます。中学校でも既に活用されていると思いますが、小学校で導入されるにあたり、やはり活用度もだいぶ差が出てくる場所があるかと思うので、ぜひ有効活用できるような研修であったり、活用のされ方であったりというところで、情報発信をたくさんしていただけたらありがたいと思います。

【宇佐美議長】

システムの更改についてのご質問だったと思います。

【三ツ堀主査】

1点目、校務支援システムの更改につきまして、まず大きく変わるのが、現在は研究所内にサーバーがありますが、それをクラウド版にさせていただきます。ですので少し使い方が変わってくるかと思っています。

2点目が、Chromebook と iPad というところですが、養護学校は引き続き iPad で小中学校・ろう学校は Chromebook で入れ替えを本年度はさせていただきます。学校に負担がないような形で、アプリケーションなど同じように使える形で整備を進めてまいりたいと思いますので、引き続き協力していければと思います。

それと3点目の電子黒板です。こちらは中学校で使っているものと同じタイプの電子黒

板を小学校、総合高校に入れさせていただきます。あと、中学校も特別教室にお配りをさせていただきます。活用の差ということで、中学校はそのままお使いいただくこととなりますが、新たに入れる小学校と総合高校には、メーカーの研修をさせていただきます。あと、小学校には ICT 支援員を配備していますので、ICT 支援員からも活用研修させていただくこととなります。また、研修ではないですが、メーカーの方で、YouTube 動画のような形でオンラインで動画を既に公開しておりますので、その辺りの情報も共有させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

【米持校長】

その YouTube 動画はもうあがっていますか？

【三ツ堀主査】

URL を共有すれば見ることができます。一般に公開されているもので、中学校向けに既にイントラネットで共有していますので、同じ情報が小学校・総合高校は見られる状態になっています。

【宇佐美議長】

他にご質問いかがでしょうか？

【新田校長】

電子黒板ですが、ログインをして使っている割合はどれくらいでしょうか。要するに電子黒板として、いわゆる Chromebook の大きいものとしてログインして使っているのか、それとも単純にプロジェクターのプラスアルファとして、デジタルカメラを使うなどしているのか。割とログインして使っている教員が少ないような気がします。そうすると使い方とコストの面はどうなってくるのかと考えています。

それから先ほどの初任者も含めて、若手やベテランもそうですが、メンタルヘルスの部分について、セルフケアで自分自身をケアすること、それから総括や中堅の方がどういうふうフォローするかということ、あと管理職が勤務など休職病休までのことを含めて、復職に向けてのトレーニングのこと、それらを含めて3パターンあるかと思います。その辺りは教職員課とどうやって連携をとっているのかを伺いたいと思います。

三つ目は、長い時間の研修、特にワークショップ形式のものについては、指導主事自身がその研修を受けてみないとわからないことがあるかと思っています。そういった意味では、外に出て研究所連盟の研修に参加するなど、指導主事が学ぶ場があるのかということについて伺いたいと思います。

【三ツ堀主査】

電子黒板について私から回答させていただきます。ログインして使う割合は、すぐにお答えできませんが、以前に活用のアンケートをとらせていただいた際に、低いということがわかっております。そのため、今回予算要求いたしました電子黒板は Chrome OS がついてないタイプの Android になります。ただ、それでも今使っているようにケーブルで繋いで、電子黒板に Chromebook の映像を映すことができますので、そういった使い方であれば

と思います。

【新田校長】

Android と今おっしゃったようですが。

【三ツ堀主査】

電子黒板の書き込むアプリなどに、電子黒板の標準で Android OS が入っています。それでタッチペンで書く、指で書くなどができます。

【田山主査】

続きまして私のほうから指導主事の研修についてお話をさせていただきます。実は先週で、関東地区教育研究所連盟の大会に、太田が出席してきたところです。そういった関教連や全教連などの研究大会などに、今年も指導主事が参加をして、実際にそういったところで他の研究所とも連携をしながら、学んでいます。また、教職員支援機構にも研修担当のための研修がありまして、そちらにも毎年、研修・調査研究担当から指導主事を派遣して、研修の最新のあり方について学ばせていただいているところです。

教職員課との連携につきましては、服務について教職員課と連携をしながら、基本研修や臨任研など、研修を行っているところです。またメンタルヘルスの研修についてはこちらが管轄しているところですが、研修で見られた教職員の少し気になる部分については、教職員課とも連携をして、情報共有をさせていただきながら、指導にあたっているところです。

【米持校長】

他に質問してもよろしいでしょうか？18 ページの沿革の最後の行で、横須賀市教育史を刊行されていると思いますが、これは紙でできている話なのか、それとも電子媒体で公開されたりしているのでしょうか？

【田山主査】

現在、電子媒体でインターネットの教育研究所ホームページで公開しております。紙ベースとしては、冊数が少ないですが、教育研究所の図書館であれば閲覧することができますので、ぜひご覧いただけたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【宇佐美議長】

それでは今のご質問いただく中で意見もたくさん出てきたと思います。この後、本来でしたら意見の時間をとる予定でしたが、最後に懇話会の構成員の皆さんから一言ずつご意見をいただくことになっていきますので、今からそちらに移らせていただきます。順番にご意見含めて、お言葉をいただきたいと思います。今日配っていただいた名簿の順番に伺い、私は最後になっております。まず河合先生からご意見を含めて最後に一言お願いしたいと思います。

【河合校長】

冒頭の所長のご挨拶の中でもあったとおりなのですが、多様な教育課題に対する方策を総合的にご説明いただきまして、大変ありがとうございます。学校単独ではなかなか解決できない課題が多いですので、引き続きご支援をお願いしたいと思います。また、教育課題研

修講座として、7月29日に東海大学の宍戸先生をお呼びしていただいていると思います。様々な分野の講師にアプローチしていただきまして、ありがとうございます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。以上です。

【宇佐美議長】

ありがとうございます。では名簿の順番に行かせていただきます。

【米持校長】

やはり研究所の役割の大きなものの一つに教員研修は欠かせないと考えております。今年も充実した研修になるように、ご尽力いただければと思っております。この研修において、教員の皆さんに、改めて自分たちの仕事が大きな社会貢献であることや、夢のある、要するに人を育てるという仕事であるということを、ぜひ自覚していただけたらと思います。それが社会に広がって行って、また教員になっていただく人も増えていくような、そういう世界を作っていけたらと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

【小泉校長】

日々学校を支えていただいて、どうもありがとうございます。本当に子どもたちを育てるには、先生方の資質能力の向上というのは欠かせないものだと思います。そこに直接的にアプローチしていただいているというところでは、本当に感謝しかありませんので、ぜひこの1年もご支援のほうよろしくお願いいたします。

【新田校長】

教員が学ぶ場でもあり、それからいろいろな知識が集積していく場所であると思っております。この長い期間を管理していただきながら、学びを作っていただいて本当にありがとうございます。ICTの機器の整備についても今年は膨大な予算がついています。現場の教師は嬉しそうです。コンピュータが変わることに、自分の品番見て、「まず俺のかな」とすごく嬉しそうです。ただクラウドに変わることによって、家に帰っても仕事するのではという考えもあります。でもすごく楽しみにしています。いろいろなことあると思いますが、これだけ世の中が変わっていくので、いろいろなことあって当たり前ぐらいの感じで学校は捉えています。本当にこれだけの膨大な整備をありがとうございます。それから予算も時間も限られてる中で、様々な研修を準備していただいているのはひしひしと伝わってきます。本当にタイムリーなものやベーシックな部分など、いろいろな課題があって、これを全部受けたら自分ももっと成長するのではないかと思えるぐらいです。本当にありがとうございます。そういうところから言えば、我々学校運営に携わる人間が、教師の学ぶ時間をどれぐらい確保してあげられるのかということと、「この先生のこれいいよ」などを先生方に伝えて、学ぶ時間と学びの意味や、方向性をつけてあげるのが我々の仕事であるというのをつくづく感じました。それからメンタルヘルスについては自分が校長としての立場として、ドクターの話や、そういうときのサービスの対応とかというのは、みんなに起きることではないですが、最近どの校長先生も抱えることなので、そういった研修もできるとよいと思います。制約もありますので希望的な意見です。引き続き教員を支えていただきたいと思います。あり

がとうございます。

【原口課長】

教育研究所の研修体系というのが、もう私が前にいたときと比べると本当に確立できていると、とても思っています。また、例えばペア研修とか、そうしたことをOJTとうまく組み合わせたり、今回はまた、2年経験者研修と5年経験者研修が学び合ったりという、工夫を本当に様々されている中で、先生方の学ぶ場がたくさん増えていると感じているので、本当に感謝しています。その中で、先ほど私が初任者研修の質問をさせていただいたのは、初任者研修はどうしても最初だからこそということで、網羅的な形の研修になるかと思っています。全ての内容が盛り込まれている感じかと思いますが、若い先生方を見ていて、先ほどのOJTもある中で、もう少し研修の中身を絞ってもよいかと思っています。どういうことかということ、先ほど米持校長先生がお話されていましたが、やはり私達教員が子どもたちと関わることの喜びとか、教員としての気概というものを大切にしてほしいと思います。私も前年度、支援教育課にいて、先生方との関わりの中で、そこを感じてらっしゃらないのかなと感じてしまう場面が結構ありました。やはり子どもたちとの関わりの中でその喜びを感じたときに、そこからは多分教員を辞めることにはならないなと自分が思っているものから、そういう経験を先生方にもしてもらいたいと感じています。それは何か意図的にできるものでももちろんないですが、ただ、教員の子どもの見方によって、子どもたち自身がどれだけ先生のことを思っているかということを感じることは、多分あるはずですが、ただ、その部分にまだ至っていない、経験自体が足りないと思ったときに、その部分を初任者研修の中で、先生同士でいわゆる課題・愚痴だけではなく、教員という仕事の良さや楽しさが語られると、また全然違ってくるかと思っています。どうしても教員はブラックなイメージと、働き方改革との両輪ができてしまっている中で、非常にマイナスな見方をするような形になってきている風潮が感じられます。確かに時間配分をしっかりとしないといけないというのはわかりますが、でも1度魅力を感じると、それが仕事と思うことなくやっていきたくなってしまふ。それも私達の職の魅力だと思います。先生方に、教員の魅力みたいなものをぜひ感じられるような研修にさせていただき、絞った中で必要なものについては先ほどのようなオンデマンドなどで見ていただく、もしくは学校全体で見ていただくという形にもできるのではないかと考えています。

もう一点、総括教諭の件についても、私は学校運営研修講座という形でしっかりと構築されているというのが、次期管理職に向けての部分だと思います。今年小学校で多くの教頭先生が増えて少し安心はしていますが、でもまだまだだと思っています。やはり管理職に対する魅力を感じることが大事だと思います。私自身も教頭の経験をしていて、教頭先生はどうしても業務が多いので、つらいと思う気持ちはあると思いますが、一方でやりがいもあるはずですが、学校全体を見ていく中で自分がこういうふうにしていきたいということを、校長先生のご意見を聞きながら一緒に学校を作っていけるという、教頭先生の魅力についても、ぜひ学校運営研修講座等で大事にさせていただきながら、マイナスばかりではなくてプラス

の部分も伝えてほしいと思います。研修はそれができると思っていますので、そのようなところをぜひ構築していただきながら、教育研究所が担っていることはとても大きいと思うので、ぜひ学校のためをお願いしたいと思っています。

最後に教育指導課もいろいろな先生方の情報を共有させていただく中で、学校担当がおりますので、一緒に支えていく、手を取りあっていきたいと思っていますので、教職員について教育指導課、あと支援教育課も含めて、ぜひ研究所の方で心配だと感じた部分について共有していただけると、私達も一緒に学校を支えていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

【宇佐美議長】

では最後に私からということで、本当にいつもありがとうございます。自分が課題と感じているのは、先生方の自己研鑽ということに対する意識がすごく変わってきていると思っています。そういうところで今回、主管は違いますけれども、教育指導課のほうでY研が作られて、本年度からスタートするということではとても期待しています。今日、課長のお話の中でも、所長のお話の中でも、他課との協力というお話がありました。私は先生方にこのY研が作られたことの意義の大きさというものを感じていただきたいし、その研鑽の場を生かして、もっともっと自分を育てる、自分に力をつけていくというところの意識を変えていただきたいと思います。これがやはり研修のできるかどうかと思いますので、お願いしたいと思います。

それでは、今日は構成員の中に本当に研究所OBがたくさんいるというところで、米持先生がいらした頃は、研修も機器の整備も、確か両方やっていたようなところがあったと思います。それが今、もっと大きなものになって、これを研究所のほうで、もっと新しい形で支えてくださっている。私、新田先生がOJTのことを言っていたのがとても印象に残っていて、これも年次研修の形として今、定着していて、研究所も日々進化しながら学校を支えてくださっていると思います。これからも本当に変化の大きい時代というところではご苦労もあると思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。以上をもちまして議事を終了いたします。皆様ご協力ありがとうございました。